

【学校生活・総合】について

学校生活全般については、高い評価、低い評価がありますが、総合的に見ると改善すべき点が多い評価となっています。保護者の評価においては、高い評価の学年・学級と、少数だが極めて低い評価の学年・学級の二極化が見られました。自由記述では多くの生徒、保護者から肯定的な意見が寄せられ一定の評価をいただいている一方で、厳しく具体的な改善を指摘されている点もあり、それらの点は真摯に受け止めて改善を図ります。

【学習指導】について

教員アンケート結果と生徒、保護者のアンケート結果の評価に差がみられました。これは、指導内容の改善が求められることと、一人ひとりの生徒の学習面での課題や日々の指導の内容を十分保護者に伝えきっているか、などの検証が必要です。また、今年度は教科での研究授業も増えたことから、他の教員の授業も参考にして、教員一人ひとりの授業に対する姿勢についても更なる検証と改善に努めます。

【生活指導】について

今年度は特に遅刻指導について取り組みを強化した結果、相当に改善されました。そうしたこともあってか、生徒、保護者からは一定の評価をいただいています。しかしながら、日々の指導に当たっている教員の評価は厳しいものがあり、日々の問題事象における更なる学年での指導の徹底が求められています。殊に、生徒の心の安定が落ち着いた学校生活に直結するものであることから、日々の生徒との触れ合いに関わる項目について、一層高い評価を得る努力が教員一人ひとりに求められています。

【行事・クラブ活動】について

全般的にみると、生徒、保護者、教員ともに一定の評価を得ています。しかし、高校2年生、3年生については、学校行事への参加の満足度は低いものとなっています。大学受験を控えているという面で止むを得ない面もありますが、勉強と行事の両立という視点で、メリハリをつけた指導を通して、生徒の参加形態などを工夫して、満足度を上げることが求められています。

【進路指導】について

保護者、生徒のアンケート結果の評価においては、大学進学を直前に控えた高校においてもクラス差があるものの、高い評価となっていません。進路説明会などでの情報提供、日々の生徒に対する進路指導の不十分さがみられます。教員アンケートにおいても低い評価となっていることは、進路指導に関わる様々な情報の共有が不十分である、ということであり改善をしなければなりません。進路指導体制の更なる充実が求められています。日々の成績、生徒の進路希望、センター試験の結果、不合格大学、合格大学等について、教員全体が一層深い情報共有をしながら進める進路指導体制の構築を図ることが求められています。

【保護者連携】について

例年の傾向であります。教員アンケートの評価に比べ、生徒や保護者アンケートの結果の評価が低いものとなっています。こうした点を念頭に置いて、学年通信や三者懇談で、また、気になる点、褒めるべき点などについて、保護者に十分に伝えきることが求められます。聴きとったことをしっかりと意識して、しっかりと改善していく学級経営を行うことが求められています。

【施設・安全管理】について

例年同様、生徒アンケート、保護者アンケートでの評価に比べ教員アンケートの評価は厳しいものとなっています。教員はもっと活発な取り組みができる施設・設備を求めています。物理的な制限で実行できない思いが評価の結果として現れているものと思われます。限られた物理的な条件の中での指導の内容の工夫と、恵まれた周辺の環境を活用しての取り組み、また周辺の施設利用も含め、どう改善すべきかの検討が求められています。

【次年度の改善と取り組み】について

今年度、基礎学力の定着、学力の伸長などを目的として、2クラス3展開の授業、特待生制度の設置や学校運営組織の改善を行い、円滑な学校運営に努めてきました。

次年度は、新たにSSコース（スーパー選抜コース）を設置するなどして、深みのある学力の伸長を図る一方で、日々の生活指導について、学年団での細やかな指導を更に進めていきます。また、殊に一貫連携教育という視点で、追手門学院小学校と授業見学や体験授業などを通して連携を深めます。

また、次年度は、経験豊かな新たな教員スタッフを加え、本校の学校経営目標の達成を目指して教員が一丸となって生徒・保護者の期待に応えて参ります。